宮崎ワシントニアパーム維持管理検討会

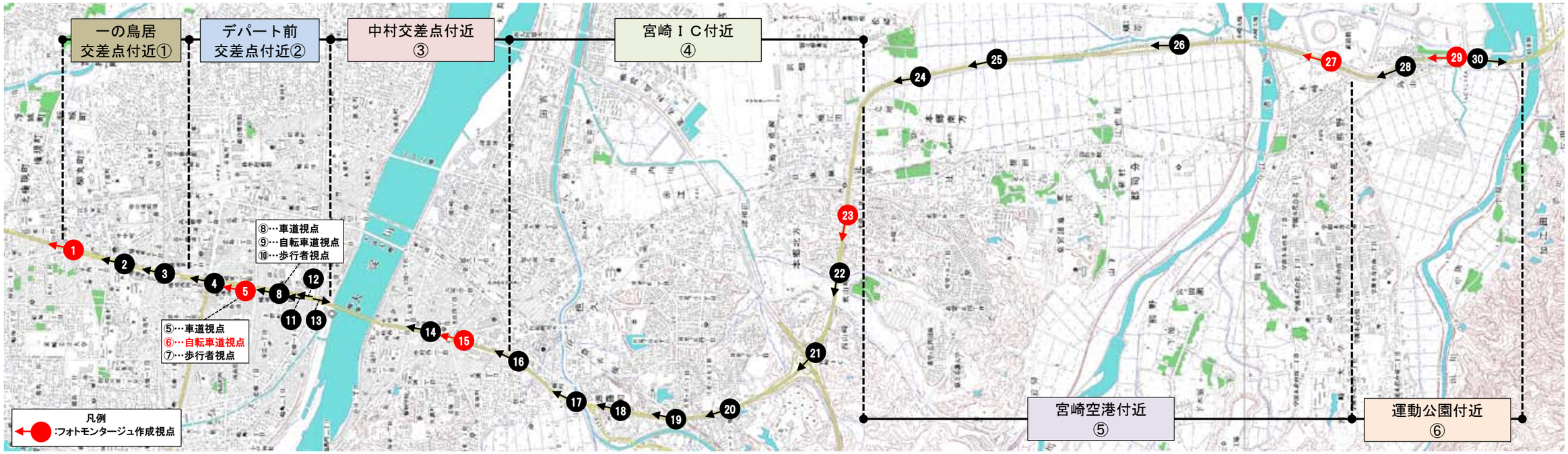
参考資料（写真・データ集）

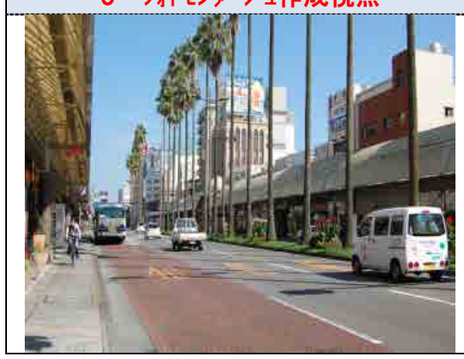
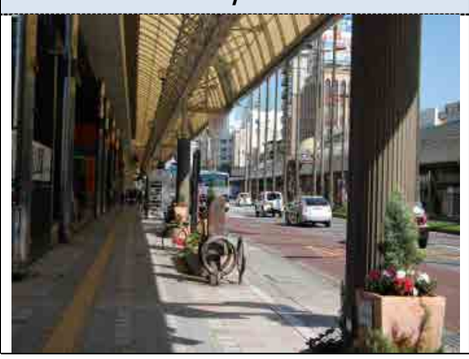
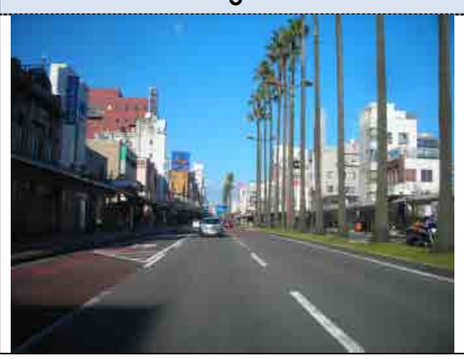
平成 27 年 10 月 6 日

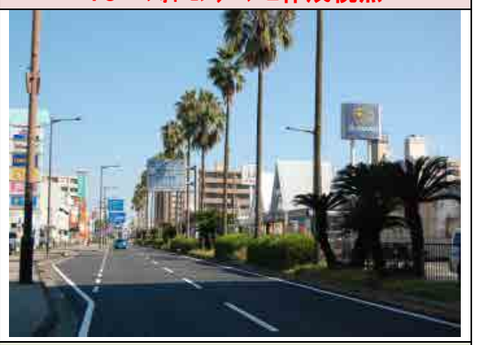
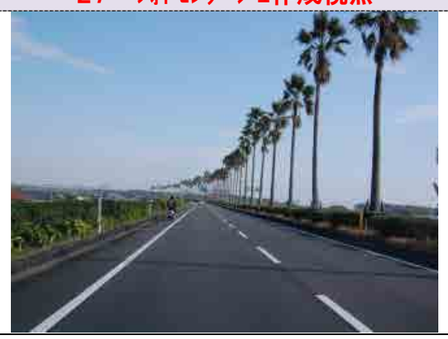
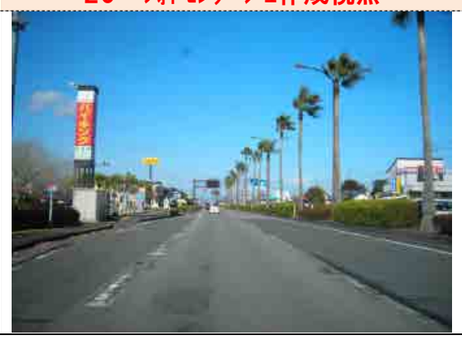
国土交通省 宮崎河川国道事務所

1．現在の状況（現況写真）

視　点　位　置　図

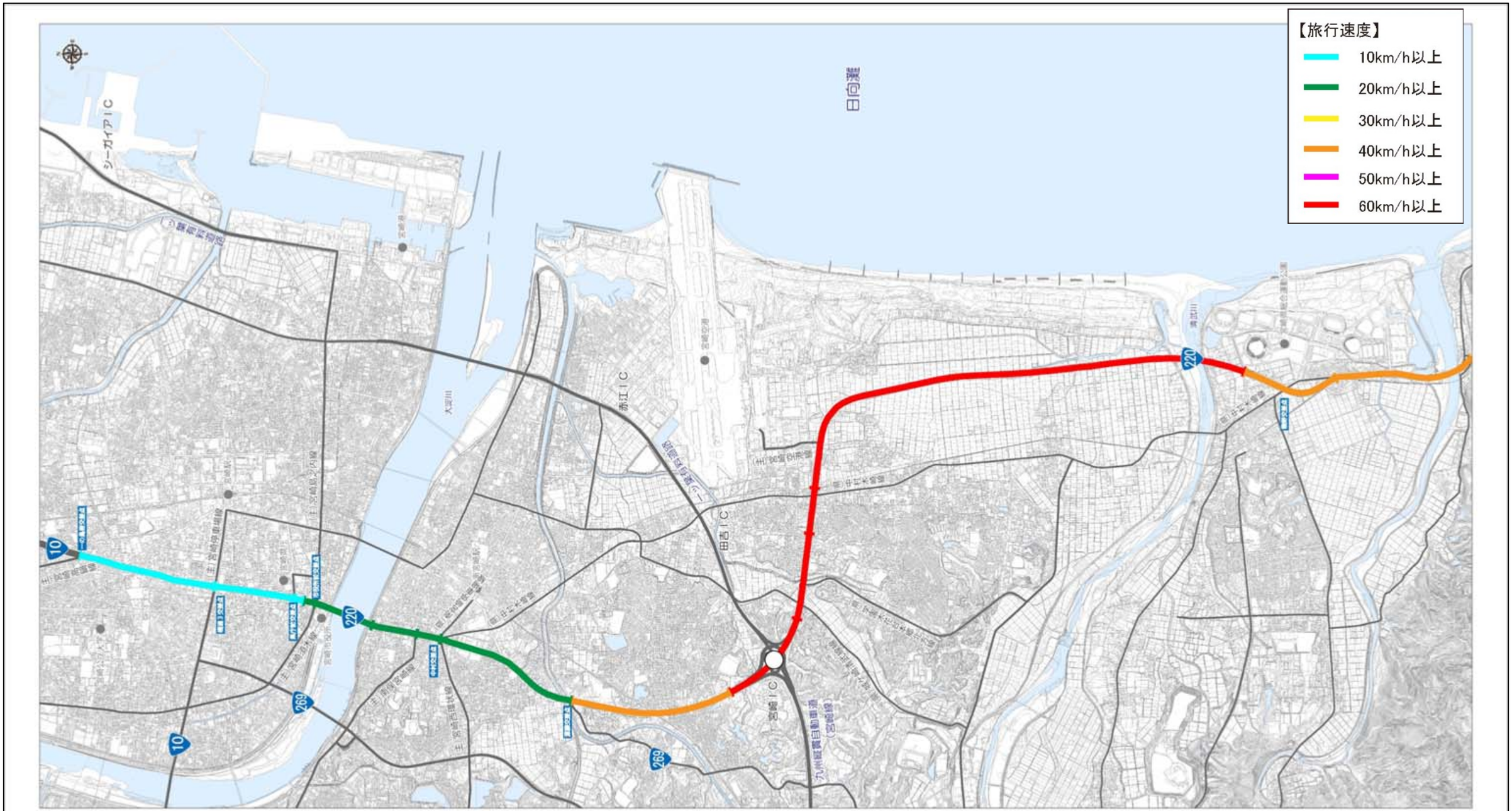


1…フォトモンタージュ作成視点	2	3	4	5
6…フォトモンタージュ作成視点	7	8	9	10
				

11	12	13	14	15…ﾌｫﾄﾓﾝﾀｰｼﾞｭ作成視点
				
16	17	18	19	20
21	22	23…ﾌｫﾄﾓﾝﾀｰｼﾞｭ作成視点	24	25
26	27…ﾌｫﾄﾓﾝﾀｰｼﾞｭ作成視点	28	29…ﾌｫﾄﾓﾝﾀｰｼﾞｭ作成視点	30
				

2. 旅行速度

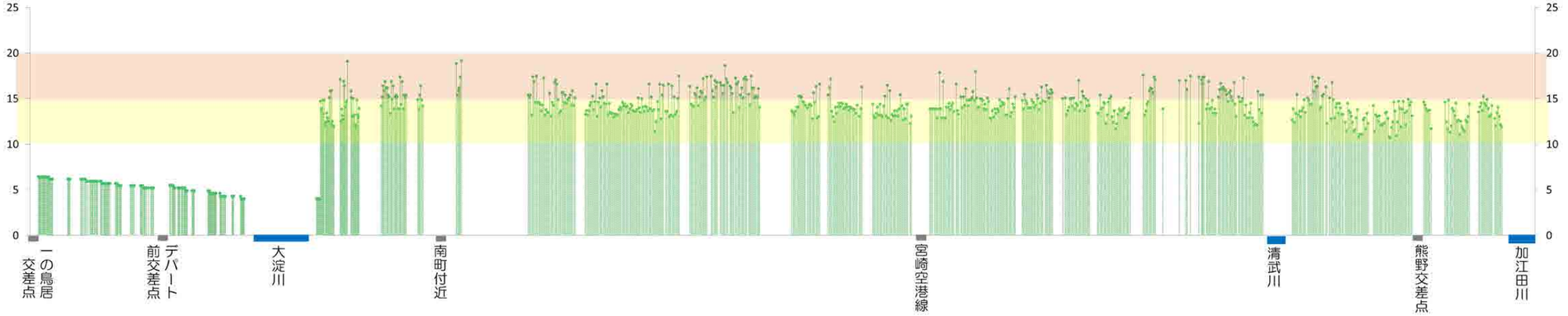
H22 道路交通センサス調査結果によると、検討対象区間の起点から源藤交差点までの区間は 12 時間平均旅行速度が 30km/h 未満である。特に起点から大淀川までの区間は旅行速度が 20km/h で、低速走行区間である。一方で、源藤交差点から終点までの区間の旅行速度は 40km/h であり、中には 60km/h を超える区間も存在する。



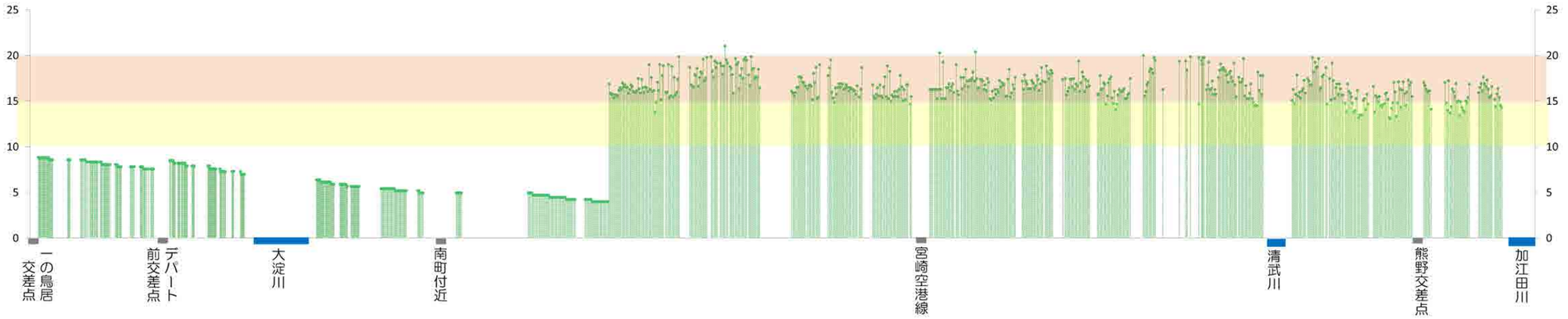
3. 樹高の変遷

・第１案：端から更新（植替え）①

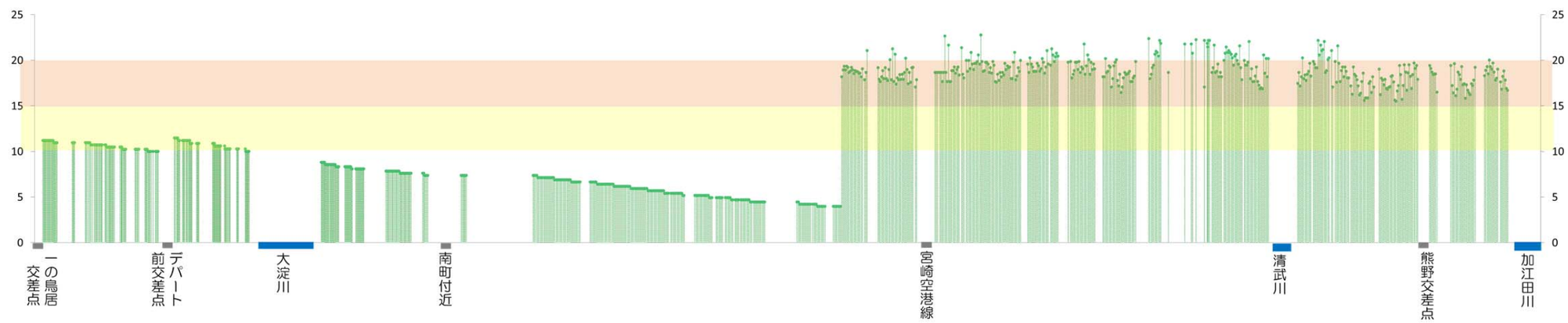
10年後



20年後

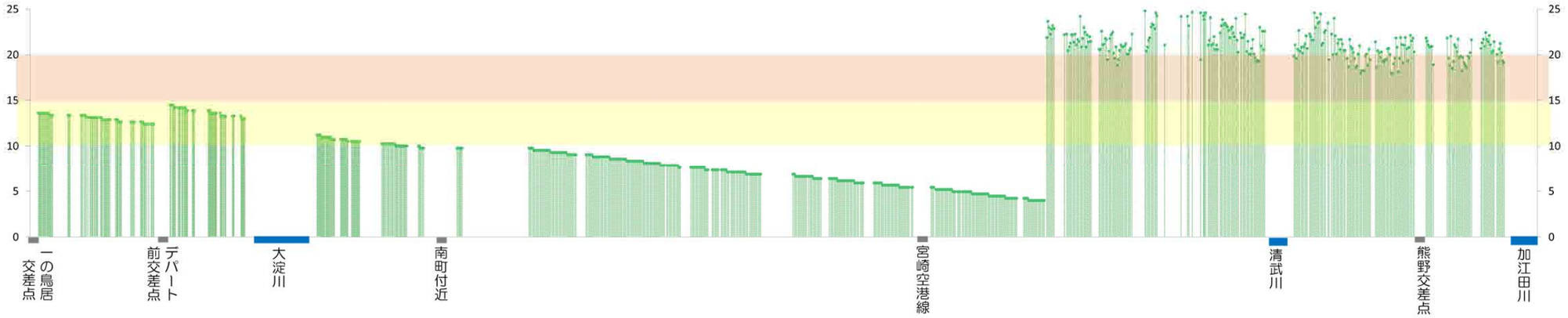


30年後

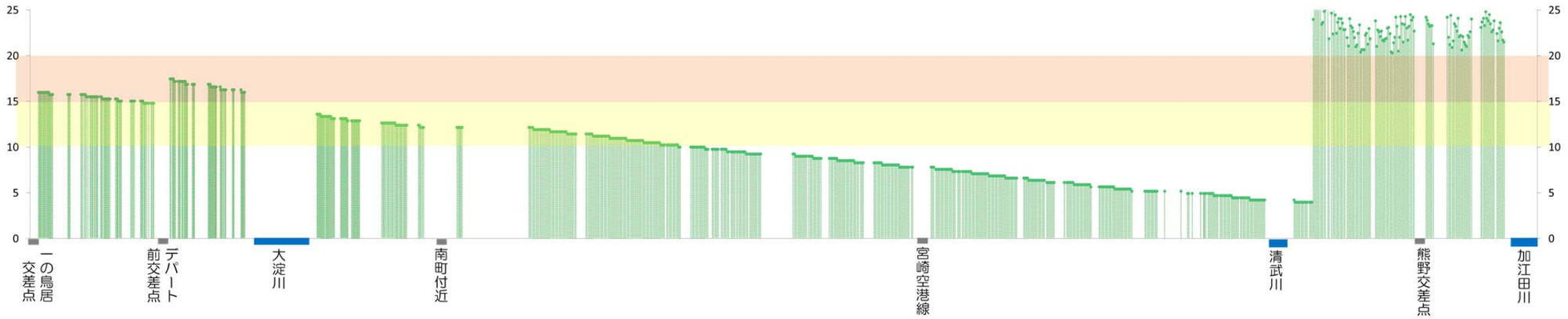


・第１案：端から更新（植替え）②

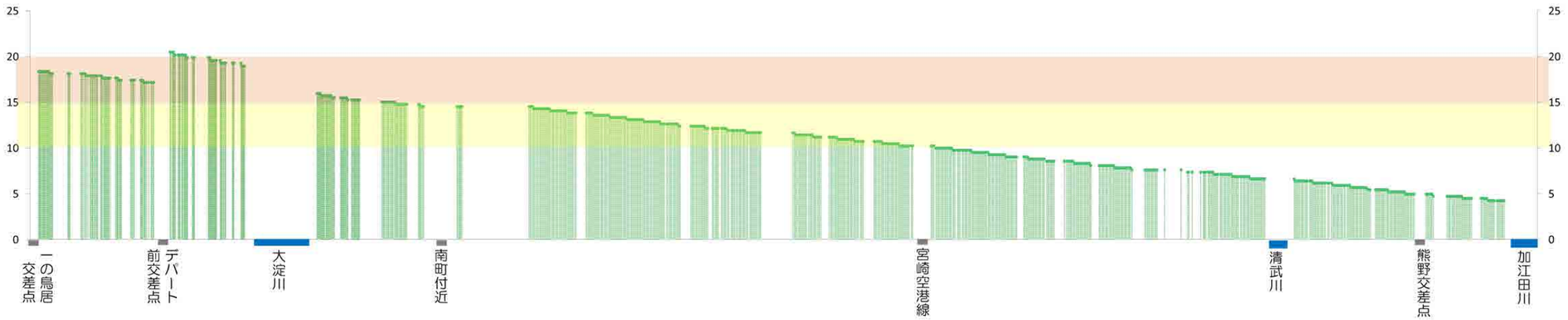
40年後



50年後

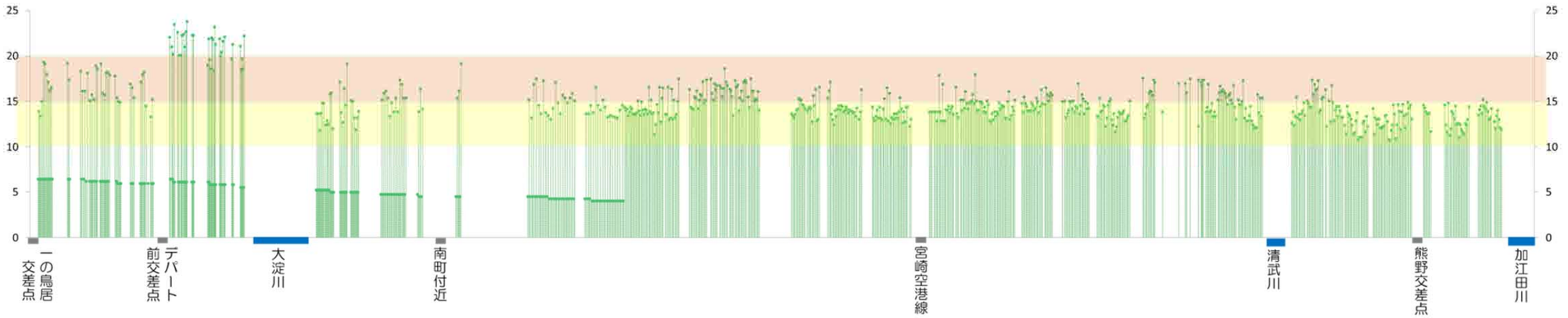


60年後

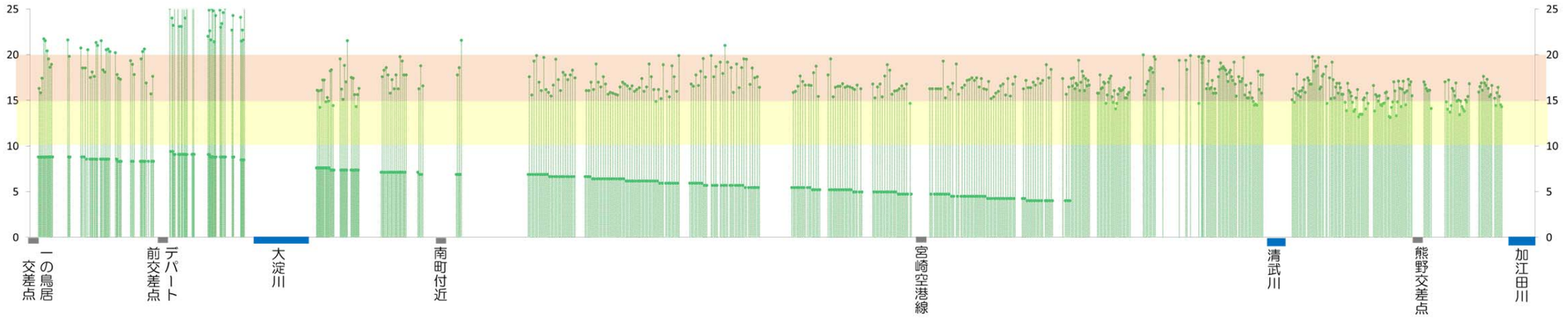


・第２案：１本置きに更新（植替え）①

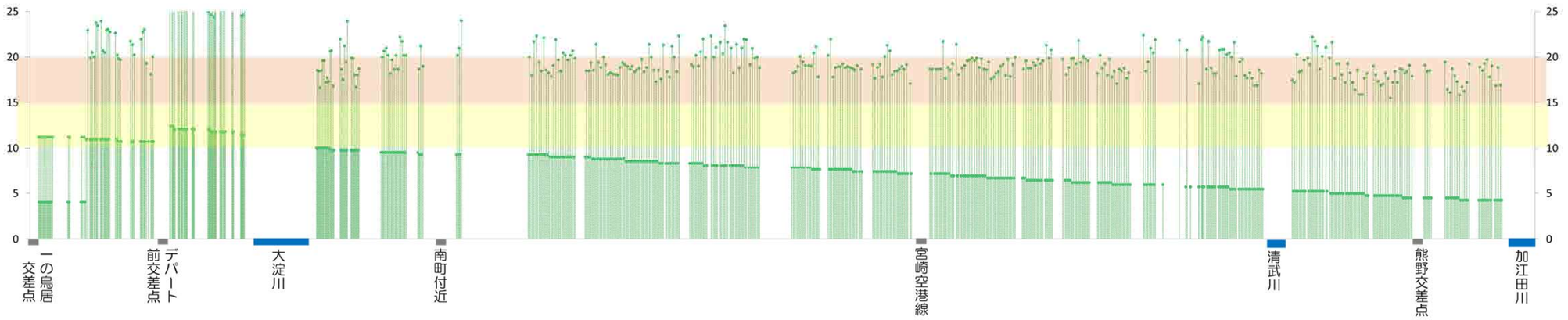
10年後



20年後

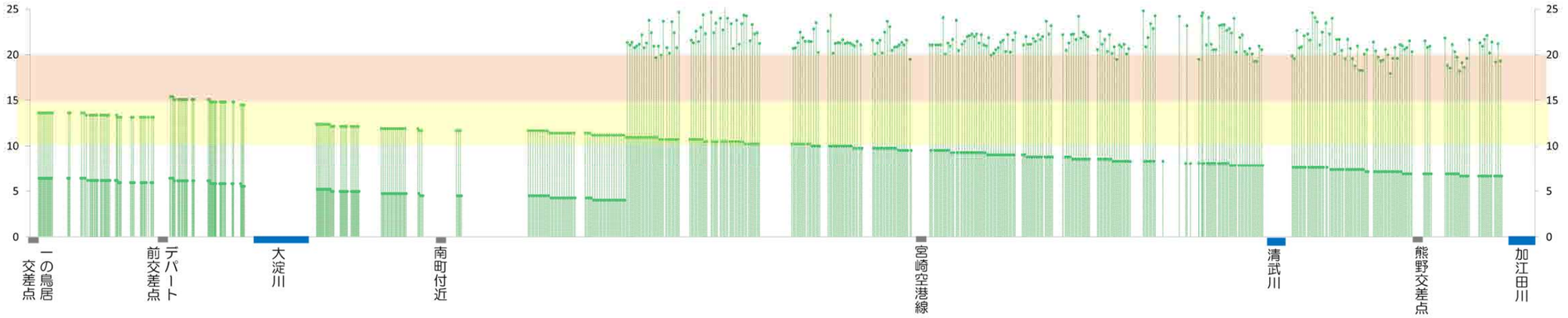


30年後

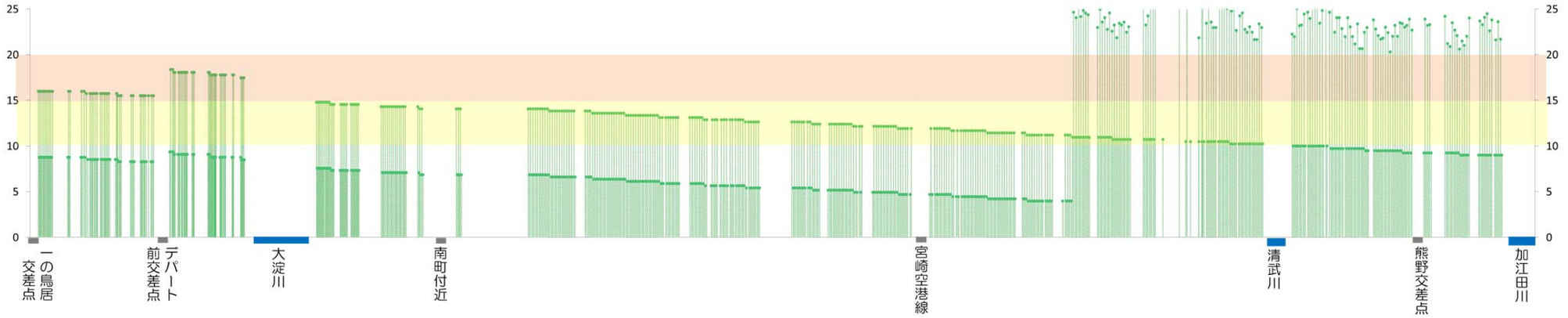


・第２案：１本置きに更新（植替え）②

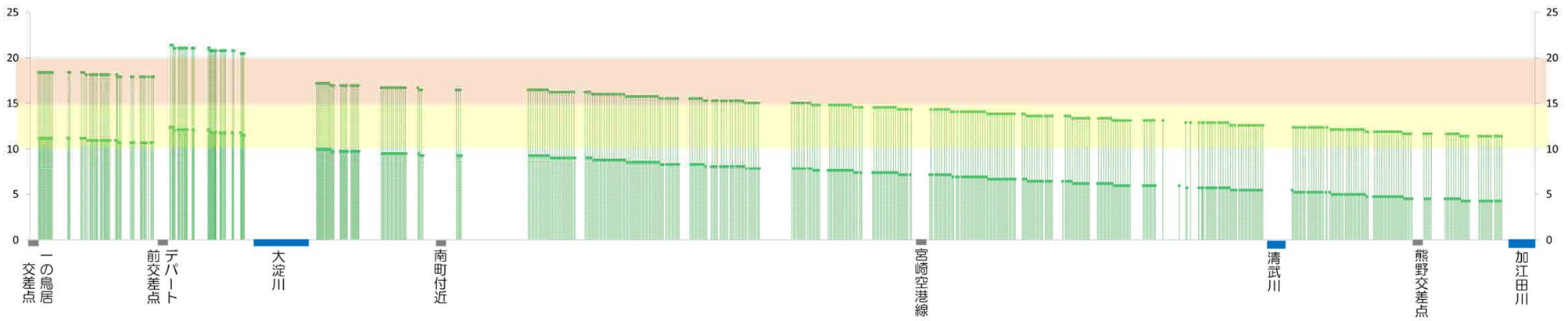
40年後



50年後



60年後



4. NHKカメラアングルによる景観シミュレーション

「①現況」

「第2案（1 本置き更新）1 年目」

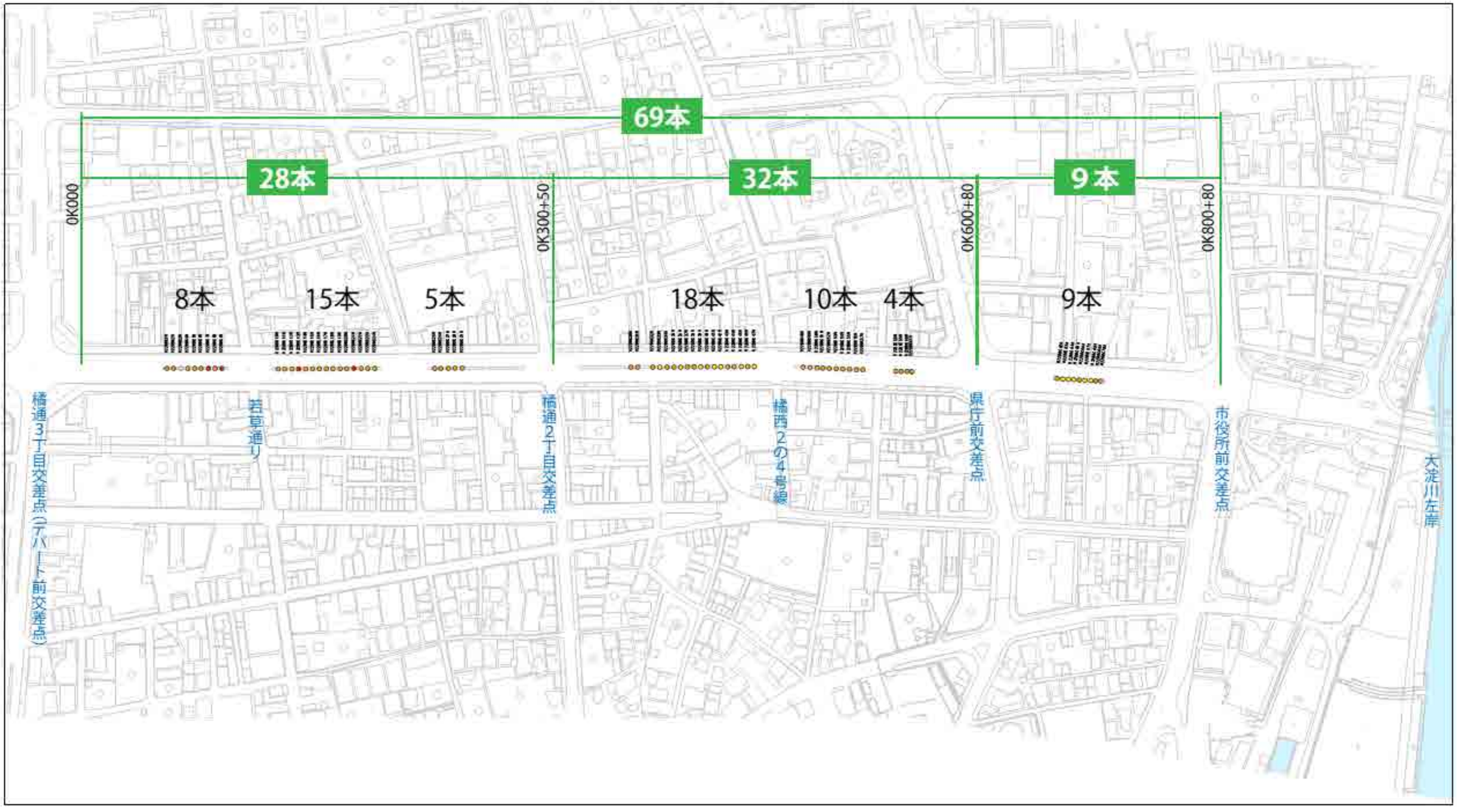
「第１案（端から更新）STEP1　第１弾更新時」

「第１案（端から更新）STEP2　第２弾更新時」

5. 橘通り植栽計画

①ケース１

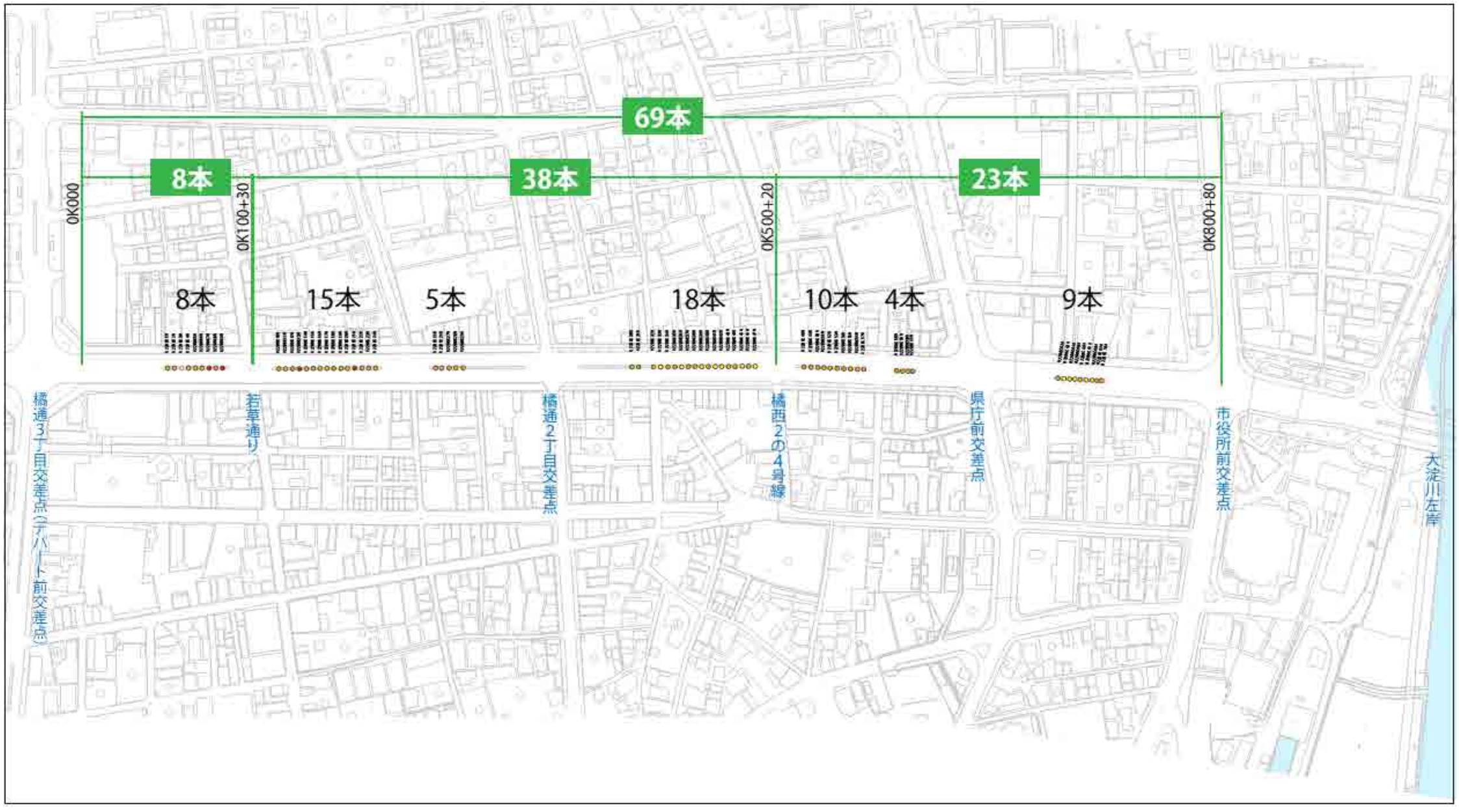
３年で植替えする計画である。パーム植栽間隔が 100m 以上となる交差点（橘通２丁目交差点：約 135m、県庁前交差点：約 110m）で３ブロックに分け、ブロック単位で植替えする計画である。



②ケース２

３年で植替えする計画である。②デパート前交差点付近における CG はこのケースにあわせて作成。

１４本／年程度の植替え、かつ交差点で区切ることを基本とし、初年度は試行的要素も含み、若草通りまでの８本を植え替えする計画である。残りの区間を２区分し、交差点単位で区切り、植替えする計画である。



6．更新木の樹高について

【なるべく高い方がよい条件】

○建築限界の確保

・中央分離帯に植栽するため、通行車両と衝突しないよう、葉先などが建築限界を侵さない高さが必要。

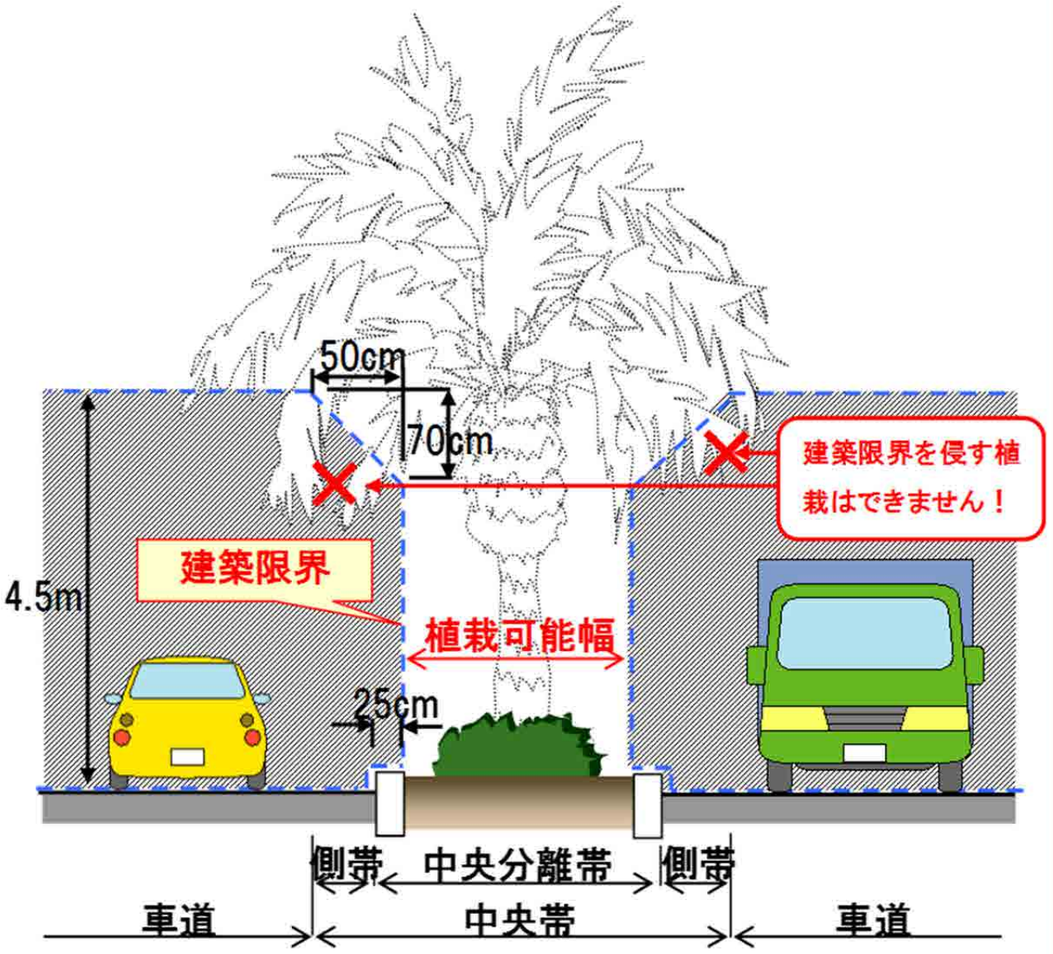
【なるべく低い方がよい条件】

○移植時のダメージ

・樹木を移植（植栽）する際、更新木を掘り取って現地へ搬入するため、なるべく若木の方がダメージが少ない。

○環境への順応性

・更新木を現地に据え付けて育成させる際、若木の方が根茎も活着しやすく、環境変化への順応性にも優れる。



運搬時のダメージ、植栽時の順応性を考慮すると若木がよい。
一方、建築限界が確保する必要もあり、樹高4m（幹高）は必要。